

沼田市善桂寺町の薄根中(金田今朝弘校長)では、教室や廊下、体育館などの電灯のスイッチ近くに、手描きのカタツムリのイラストが張られている。背中には殻の代わりに電球。節電の大切さを伝えようと生徒が考案したマスケットキャラクター「節電伝虫(せつでんでんむし)」だ。

5月末、沼田市は市有施設の電気使用量を前年同月比20%削減する「夏の節電行動計画」を発表した。中学校も計画の対象。生徒会顧問の永島芳信教諭は「どうすれば節電がうまくいくか考えてほしい」と生徒会本部役員に投げかけた。同校ではすでに豆をモチーフにした保健委員会のキャラクター「Bee

沼田薄根中生徒会

eans(ビーンズ)」が生徒に親しまれていた。これに着想を得た副会長の金子奈雄斗君(3年)が「節電のキャラクターを作ってはどうか」と発案。殻の部分を円形の蛍光灯にしたカタツムのイラストを描き、「でんでん虫」

富沢美里さん(3年)がよりかわいく親しみやすいキャラクターに改良。6月中旬に電球を背負った現在の「節電伝虫」が完成した。

その結果、7月の消費電力は前年同月比20・3%減を達成。生徒会長の河合鴻介君(3年)は「結果が出てうれしかった。

節電キャラクター考案

こまめな消灯浸透

と「節電」を組み合わせて「節電伝虫」と名付けた。これを基に副会長の

達成するために電灯の25%を消す目標を設定。生徒会本部では、節電伝虫を手描きして学校中のスイッチに貼り付け、不要な照明を消すよう呼び掛けた。生徒たちは教室を空けるときや掃除中、休

み時間の消灯を徹底。晴
富沢さんは学校で節電

に取り組んだことで家庭での過ごし方も変わったという。「すぐにクーラーを付けずに扇風機を使ったりして、なるべく電気を使わずに涼しく過ごす方法を考えた」と夏を振り返る。同校は地球温暖化防止も目的に今後も節電を続けていく。生徒たちの取り組みを見守る節電伝虫に冬眠する暇はなさそう



廊下の電灯のスイッチに貼られた「節電伝虫」のイラスト

3・11
あの日から...